

ありんこ便り

2014年
4月14日発行
通巻第18号

由木かたくりの会の家族会「ありの会」会報



「ありの会」へのご意見・ご要望は、〒192-0355 八王子市堀之内 1236-8 社会福祉法人 由木かたくりの会 気付「ありんこポスト」 までに郵送するか、ポストに直接投函して下さい。Eメールで送る場合のアドレスは《 arinko_renraku@yahoo.co.jp 》へ。ホームページは《 http://space.geocities.jp/arinko_renraku 》です。

「なみき福祉会」のケアホームを見て来ました

3月24日、会員17人、利用者1人、法人から2人の参加で、2度目のグループホーム見学会を行いました。「なみき福祉会」のグループホーム事業の総称が「みんなの家」で、その中に『はっぴーはうす』と『ひまわり』と『ウィズ』の3つがありますが、この度は『はっぴーはうす』と『ひまわり』の二カ所を見学させていただきました。前回の見学は新築のホームでしたが、今回は二カ所とも賃貸住宅を利用されているのが大きな違いです。



『はっぴーはうす』
8LDK くらいの大きな1戸建てで、各部屋も広くアットホームな雰囲気の落ち着いたホームです

『はっぴーはうす』（めじろ台の閑静な住宅街にある一戸建て住宅）は、女性5人が、『ひまわり』（小門町の町中のマンションの一階）は、女性3人と男性1人が、利用されています。

世話人の方が生活されている方々の日常をお話して下さい、私たちの質問に丁寧に答えて下さいました。どちらも、私たちの暮らしている家とほとんど変わりが無く、家庭的な感じがとても良かったです。また、近隣の住民の方々との関係も良好とのこと、世話人の方々のお人柄とお心遣いが感じられて、とても良かったです。



『ひまわり』
5LDKの間取りです

どのホームも独自のカラーがあり、どんなところが合うのかは、それぞれかな？と実感しました。「なみき福祉会」様には、年度末のお忙しい時期に、快く見学を受け入れて下さったこと、心より感謝いたします。又、前回に続き、この度も送迎車の利用等、法人の協力をいただき、ありがとうございました。

新しい仲間をお迎えしました

4月1日、午前10時30分より平成26年度の「かたくりの会」の入会式が行われました。前年度から入会されていた2名と新たに入会された4名の方々の6名を、利用者・来賓・職員が参加してお迎えしました。

利用者が87名のとても大きな所帯となり、2階の生活ルームは立錐の余地もないほどびっしりでした。八王子の東部地域に根を下ろし、社会福祉法人としての事業もやっと安定して来たようです。これからも地域での障害者の受け皿としてより一層の充実が必要ですし、その責務も大きくなって行くものと思います。「ありの会」としても法人に協力し、一層の支援をして行きます。また親、家族としての目で利用者が地域の中で恒久的な生活の場を確保できるように、見守り・考え・工夫し・提案して行きたいと思えます。会員の皆様の一層のご協力をお願いいたします。



新年度の入会者をご紹介します

SGさん	かたくりの家生活介護	多摩桜の丘学園より
HSさん	由木工房喫茶	八王子福祉作業所より
YTさん	由木工房生活介護	多摩桜の丘学園より
KKさん	由木工房生活介護	八王子特別支援学校より

念願のケアホーム建設へ向けた一歩



年度末ぎりぎりの3月25日にケアホーム建設予定地で地鎮祭が行われました。当初の予定ではH24年3月に着工しH25年10月にホームを開所する計画でしたが、近隣住民の方々や堀之内町会から反対や不安の声がたくさん寄せられました。これに対して「かたくりの会」は地域住民の方々のご理解とご協力を頂く事は非常に重要な事なので、合意の形成、説明責任をはたす事を優先させて着工を見送りました。

H25年度には法人とともにありの会有志も参加して「ケアホーム交渉委員会」を立ち上げ、町会、住民説明会などでの説明や、住民の方々のご意見、ご要望

を取り入れ可能な限りの制度、体制や設備変更などの対応をして来ました。

近隣住民の方の不安は大きく、全面的な賛同を頂く事は困難な状況が続きました。しかし、町会の方々も「高齢者、障害者を地域で受け入れ包括的に支援する」というのは大きな社会的要請、流れであるとして住民の方々との調整に当たって頂きました。

これらの努力により、3月16日の住民説明会でホーム建設はやむなしとの合意形成にいたる事ができました。今後は不安低減へ向けて具体的な条件や環境整備などの対策を検討して行く事となりました。

「ありの会」としては、今後の建設過程や開所後の運営過程で住民の方々との交流、親睦がより一層深まるように法人とともに協力して活動して行きたいと思えます。

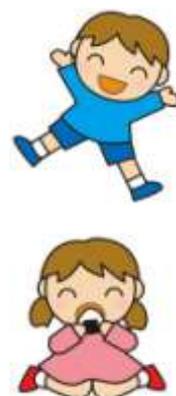
堀之内寺沢里山公園で竹たま祭

竹を素材にして、竹細工、竹とんぼなど、竹をとおして自然環境を学びながら、親子や子ども同士の交流を里山で楽しもうという「竹たま里山まつり」(のびのび遊ぼう、竹の里、たまの子)が3月21日の春分の日に催されました。「竹たま」は八王子市教育委員会の後援で八王子・子どもの居場所づくりプロジェクト、帝京大学児童文化研究会 STEP、東京薬科大学 ASIATO が主催するイベントです。



大勢の親子が参加して11:00~16:00まで、さまざまなイベント、ショーや体験教室を楽しんでいました。

かたくりからは「太鼓の演奏」、クッキーやコロケの販売で参加をしました。かたくりの家やケアホームの近くの住民の方はあまり参加してはいなかったようですが、今後はより一層地域行事に参加して「かたくりの会」を理解して頂く機会を増やして行きことが大切だと思います。



第4回ありの会通常総会

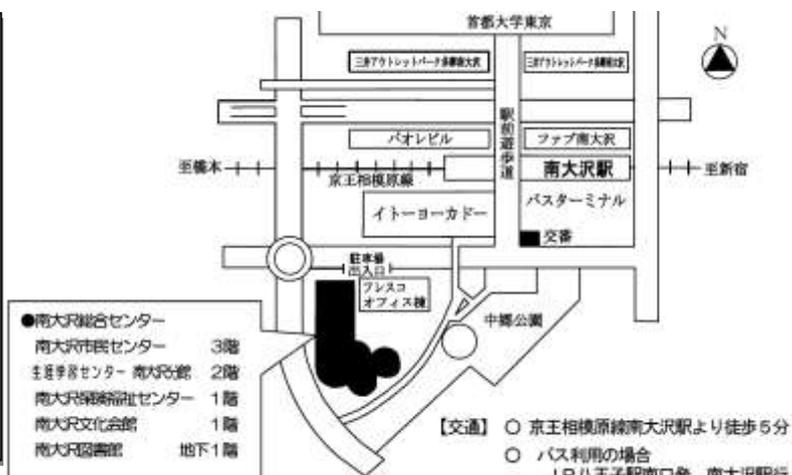
ありの会の平成26年度の総会を開催いたします。開催概要は下記の通りです。議案書は4月26日までに会員の皆様へ配布いたします。ご多忙とは思いますが、ご都合を調整し参加して頂くようお願いいたします。

また、出席表か委任状は必ず提出して頂くよう重ねてお願いいたします。

日時：2014年5月10日(土)
13:00 受付開始、13:30~ 総会

場所：南大沢総合センター2階
生涯学習センター南大沢分館
視聴覚室

議案：H25年度活動報告、決算報告。
H26年度活動計画、予算案。
新役員の承認。





かたくり製品の販売・配達先のご紹介

今回は長池ネイチャーセンターを紹介
します。長池ネイチャーセンターは長池公
園内に 2001 年に開館し、2006 年から八王
子市から委託を受けた地元の NPO 法人
「FUSION 長池」に管理運営されています。
「福祉団体の手作り品コーナー」に八王

子市と町田市の福祉団体の製品を販売しています。福祉団体の製品の販売は、ネイチャーセンターの理事長が市と交渉して始まったそうです。かたくりでは、かたくりの家の石鹸、由木工房の草木染め・犬のクッキー、ぷらさのクッキーとパウンドケーキを置かせていただいています。

クッキー・パウンドケーキはとても人気があり、来館されたお客様が良く購入されていかれるそうです。毎週金曜日がぷらさの配達日なのですが、この日も午前中に最後のクッキーが売れてしまったそうで売り切れ状態でした。



ネイチャーセンターでは、ジブリの「平成狸合戦ぽんぽこ」の展示をしています、休憩できるスペースもあり飲食も可能です。公園内には、時期は過ぎてしまいましたがカタクリの自生地があり

ります。ウォーキングにはぴったりの季節です、公園を散策した後でネイチャーセンターでひと休みされてはどうでしょうか。

お知らせ

◎ 歩道の柵の整備作業にご協力下さい ⇒ 5月15日(木) 13:00より

ありの会設立当初から「奉仕日」として「かたくり」の為に何かしようと検討して来ましたが、今回やっと適当な課題が見つかりました。かたくりの家 正面右側の小路の柵が老朽化して危険な状態です。これをブロックを並べて木材のチップを撒いて整備します。**男性の方の参加を強くお願いいたします。**またそれほどの重労働ではありませんので、女性軍の参加もお願いします。汚れても良い服装でお集まりください。

軍手、お飲み物は用意します。

◎ 防災協議会の報告

3月6日(木) 第4回目の協議は、これまでの集大成として購入備蓄品の確認と防災マニュアルの内容確定を行いました。理事会の承認後に配布する予定です。前回の検討事項であったヘルメットの備蓄に関しては、サイズを各自に合わせておかないととっさの最に使用せず、保管・管理も大変なので現在の20ヶの備蓄で訓練を行い様子を見てから検討する事としました。6月の定例会に合わせて「緊急時の引き渡し訓練」を行う予定です。

防災協議の枠組みは今回を持って終了・解散となり、今後はありの会役員会での法人との協議の場で調整を続けて行く事となりました。

◎ 個人補償保険の加入手続き

前年度は個人補償のA I U保険に団体に加入しましたが5月28日に満期となり、自動継続はされません。本年度は個人で加入手続きをする事になっております。お忘れの無いよう手続きをお願いします。

◎ 異動のお知らせ

【利用者】 FK さん (ぷらさ.deかたくり 就労継続支援B型へ、由木工房より異動)
MH さん (由木工房 就労移行支援へ、由木工房内異動)

【職員】 新通 勝 さん 3月3日入社 送迎(2号車:堀之内・南大沢コース)
梶島 さん 4月1日 かたくりの家 就労継続支援B型 サービス管理責任者に
佐藤 慶さん 4月28日 育休明け出勤

かたくりの会と私と

野口洋子

ログハウスでスタート

平成4年4月、新しいログハウスでの活動がスタートする。備品、調度などなにもかもが新しい。あっちこっちにこれらを移動したり戻したり、どうにか収まりがつき安定してくるにはちょっと時間がかかった。建物はもちろんだが、備品1つだって、前号に書いたように東京共同募金会から提供してもらったものなど、潤沢ではない予算の中から厳選したものであり、すべてに愛着があった。それらが、所を得たように収まって落ち着いてきた。室内は檜のほどよい天然自然の香りがいい。心なしか子供らも慣れてゆったりと落ち着いてきたように見えた。自前の施設を持つとはこういうことかと充実と満足感に満たされる。かたくりの会はこれからなんでもできそうに思えた。

なんでもできるなら、この際、子供らの作業内容も一変して収益も上がるようななにかを期待はしたいところだが、そうは間屋が卸さない。あいかわらず、これまでの農作業を主



として活動していた。でもゆくゆくはもっとなにかということ常意識の底にあった。

まずは、新しい組織に対応した運営体制を整えるべく、スタッフの中心になる所長に、伊藤陽子さんをお願いする。私には無理というのを1年だけの約束でようやく引き受けていただいた。

運営委員会も正式に発足する。委員長は藤谷浩先生(多摩養護学校)、地域代表は鈴木昇さん、会計は公認会計士の深谷誠さん。所長の伊藤さんに、保護者役員、代表の私というメンバーであった。

(写真:間伐材をふんだんに使用したログハウスの内部)



喫茶コーナーに挑戦 ①

秋になって、八障連(八王子障害者連絡協議会)から連絡をもらう。八王子市が南大沢地区に計画している総合施設の建設説明会があるという。この計画は、2年ほど前に新聞で報じられた。障害者のための施設も組み入れられないかに関心を持っていたが、その後なんの音沙汰もなかったので立ち消えになったものと忘れていたのだ。

さっそく会員数名で説明会に出席する。市の説明では、財政難で計画がとん挫していたが、今回、銀行の信託方式で建設のめどがついたとのこと。銀行の信託方式がどんなものか本当はよく解らなかったが、そんなことより、私は、その建物(文化会館)の青写真で1階フロアに数台の自動販売機とソファが数脚置かれてある図面に着目した。というのも、平日頃、比較的障害の軽い人たちの、就労にむけての訓練の場を考えていたからで、公のこういう広い場所で一般の人たちと触れ合いながら働けたらどんなにいいかと思われたからであった。要するになんかびびっと閃くものがあつたのだ。このフロアの奥は大きな収容人数の舞台になっていた。大きなコンサートなどの催物が引けて、帰りの客がどっと立ち寄る喫茶店などできたらさぞかし儲かる。喫茶でもおにぎりやカレーやケーキも置こうかなどと、説明を聴きながらあれこれ夢ばかり膨らんでくる。

一通りの説明のあと、「なにか質問のある人！」の声に、私はまっさきに手を挙げていた。

「この一階フロアの広い空間で、障害者団体の展示とか販売等は可能ですか」と。本当は喫茶コーナーの開設は可能か打診したかったのだが、いきなりそれを持ち出しても取り上げられないだろうと思われた。

市側は「即答はできないが、展示等は前向きに検討したい」との返答であった。私は

「ここに飲料の自販機とソファを置くことは決定されているのですか」と続ける。

「文化会館を利用する市民が、ちょっと休憩できるような場として図面に落した。これで決定ということではない」

私は、次の瞬間には「フロアの有効な利用については、障害者団体でもいろいろ知恵を絞ってみたい。そういう話し合いを私たちにさせて下さい」とお願いした。ここではまだ許認可の段階ではない。市民団体から、有効利用について考えてみたいという提言に反対する謂われはない。直感で、これは今後の交渉次第で実現するかもしれないと踏んだのだ。鼻から

この設置を要望しても相手にされない。それでいわば搦め手から攻めていったようなもの。通常では認可されないログハウスを完成させるまであの手この手と自分も鍛えられた。交渉がうまくいった。端的に言えばずるくなったのだなどと苦笑する。

説明会后、八障連事務局長の土居さんから「野口さん、この件は八障連と一緒にやりましょう。それでぜひ事務局に入ってもらいたい」と言われ、これを承諾する。

この事務局の会議は月に1回、夜間に行われた。重度の障害の千加良がいるので、夜間家を空けるのは、私にとって大変だったが、役員に交替してもらったりしてやりくりして続けた。

会議では、聞き慣れない専門用語などが出るので、そのたびに恥を忍んで、それはどういう意味かと質問した。これまではかたくりのことばかり夢中でやってきたので自ずと視野に狭い面があったかもしれない。ここで市とか都、あるいはもっと広く国の行政のありかたなど幅広く福祉の世界を勉強することができてとてもよかったと思う。

そのうち文化会館の建設が始まった。この完成まで3年。その間の喫茶コーナー開設までの運動は次号にまわしたい。

花卉作りに挑戦

かたくりのもう1つの新しい取り組みは偶然の機会から始まった。ある式典会場で、多摩養護学校の菊地澄子先生と隣り合わせになりおしゃべりした。先生は、作業所の活動の中に花卉(かき)作りを入れたらよいのではとおっしゃる。

「養護学校でも生徒の訓練作業の一環としてやっているが、重度の子も軽度の子も一緒に関わられる。なによりも花が咲いたときの子供らの表情はとても良いですよ」と。私は、それは素晴らしいに違いないとまたまた夢を膨らませて、菊地先生にあれこれ尋ねた。これを指導してくれる人はいるか。どんな花がいいか、肥料や鉢の入手経路など、いまなんの式典だったか全然思い出せないほど、ずーっとその話ばかりしていたのだ。

さっそく運営委員会に諮ると全員賛成であった。

花卉作りは菊地先生にご紹介いただいた新橋さとる氏のご指導いただけることとなった。さあ、それではとさっそくビニールハウス作らなければと、またまたいつものごとくだが、資金面を抑えるために、親たちの手作りで始まった。といってもみな素人、地域の割田氏(越野在住)が土台作りから手伝ってくださった。ビニールを運搬してきた農協の職員には、そのまま現場に引きとめて手とり足とりで教えてもらったりする。障害者施設だと、こういうときみなさんよく面倒みてくれる。ありがたいことです(甘えてばかりいられないが)。そうやってビニールハウスを完成、なんと1ヶ月近く掛った。最初は、ログハウスの隣の道路側。数年後の2棟目は、いまの本館の裏の通路、駐車スペースのある所にかなり長大なものであった。

花というより観葉植物のカラージューム(カラージューム)、かわいい花をいっぱいつけるオンシジューム、ムスカリを育てた。カラージュームなどその名の通りいろんな色合いがあり、オンシジュームも種類は豊富でずらりと並ぶと見事なものであった。ちなみに園芸店で一鉢の値段を見てほしい。びっくりするくらい結構な値段がする。それらの成長に子供らが興味津津、じっと観察する子供もいた。実は私も子供に負けず劣らず毎日その成長を見るのが楽しみであった。子供のころ鉢植えのチューリップの成長が待ちきれず、球根を掘り返してみたことなどが思い出された。オンシジュームの花ことばは「清楚」と聞いてきた子がいて、清楚とはどんな意味かとトンチンカンなやりとりがあって笑った。畑に較べたら、この管理作業はかなり手間がかかって易しいものではなかった。日当たりを好むので位置を変えたり、液肥をやったり、虫をとったりと作業は細分化される。それで重度の子も軽度の子も作業できたし、軽度の子が重度の子の補助をするなどほほえましい光景もあり、私たちもよい勉強になった。



(写真: 当時の畑作業活動の見学会にて)

難点は、夏の暑い日のうだるようなハウスの中での作業。休日でもハウスの開閉や水やりをすること。冬は暖房設備の温度の管理、雪の日はすぐに雪おろしをしないとビニールが破けてしまう。そのつど親が交替で駆けつけた。

販売面も、職員、保護者役員が近隣の花屋、スーパー、生協などに交渉、多くの店で買い取りで協力してくれた。この時、利用者の工賃は1万円ほどになった。スタート間もない訓練施設では多いほうと言われた。これをあしかけ4年ほど続けた。

(つづく)